

県女第一期生より、皆実高校生に至る七拾一年の歴史に連なる者。また今後、この同じ流に連なる者、手をつなぎ足音高く歩もう。足音高く声を揃えて元気に歩もう。我等は、皆実有朋会員である。歩もう、歩もう力強く。

# 皆実有朋



# 皆実有朋創立70周年記念式典 盛大に開催さる!!

皆実有朋会館落成式ならびに  
第18回同窓会総会開かれる

皆実有朋会第18回定期総会ならびに皆実有朋会館落成式、そして新会員歓迎会は、去る昭和

46年10月3日(日)皆実有朋創立70周年記念式典にひきついて、盛大に行なわれました。

会は、皆実70年の歩みを深くかみしめながら、会員の手に成る同窓会館の落成に心か

祝福するなかで、終始なごやかに進められ、同窓会の新しい歩を確かめながら、幕をと

じました。

今から六十年前の母校で学んだ錦織江さん(有朋七期、明治四十五年卒)の回想が「皆実有朋七十周年記念誌」にのっています。夏休み帰省するには、日曜日三次方面の上級生につれられ、橋下(相生橋付近)に行き人力車を予約しておき七月二十一日朝夜明けじる、五台ほど車をつらね上り手前まで行くと坂道にさしかかるので、前引といつ網を車につけて前引する人夫を頼み、坂下まで二人で引き、それより私たちちは車をおり、車夫とともに坂道(近道)を歩き、峠の宿でお茶などを飲んで休んでいると、前引きが車を引いて大廻りして上って来る。車を降りた時は腰が痛くてすぐには歩けないくらいだ。そして途中、向うから車がくると、車夫同志が談合し、車をかわってくれという三次まで直通で行く車は少ない。三次まで円ぐらい。三次から庄原市山内まで五十銭親戚とまり。(中略)また人力車で西城平子まで二十キロ。そこから約十キロ歩かなければならなかった。去年の十月三日、母校皆実高校体育館で開かれた創立七十周年記念式典には、先の錦織江さんをはじめ、明治・大正・昭和三代にわたる約三百名の同窓生が集まり祝いました。

下同窓会館(只今一百万円の借金です)、会員各位の御協力をお願いします。

会員終身会員千五百円)

住所の変更をお知らせ下さい。

この式典は、現在も各方面で活躍しておられる母校の元校長先生方も参加下さいました。中でも、今は神奈川県の方でお住まいの木村二郎先生は、わざわざ遠方からかけつけて来て下さり、諸先生方を代表して、親しくお祝いのことばを下さいました。

また、永野広島県知事も出席下さいました。知事の母堂が県女のご出身であるということから、特にご出席下さったわけです。挨拶のなかで知事は若い頃を思い出して次のような話をされました。

「私の家はちょうど県のそばにありました。その頃は今のような男女共学が許されなかつたので、学生の私にとつては家の二階から望む県女の校庭が、ほのかな楽しみだったものです。この式典の日にはまた皆実有朋同窓会館の落成も祝いました。同窓生やPTAの協力で母校の一隅に完成した同窓会館が、同期生の間だけでなく、先輩と後輩を結ぶ場として、また在校生の憩いの場として大いに活躍しているという報告が、友広事務局長から述べられました。そして同窓会館の建設前後に母校の校長や教師としてご尽力下さった方々に感謝状をおくり、衷心よりお礼を申し上げました。

最後に、参集者全員で校歌を唱い、母校の前途を祈つて式典の幕を閉じました。

(現皆実高校教諭)